

歌碑

文化

寺社

# 南阿蘇って

石橋

いいな

板碑

点在する文化財を訪ねて

(随時掲載)

神体

伝統

歴史

より高くより多くの人々を

このシリーズも今回で8回  
目となり、これまでずいぶん



天井を開放して安置されています  
(くまモンの高さは約50センチです)

核心に触れてまいりましたので、仏像に対する見方が少しは変わっていただけででしょうか。

写真もなるべく仏像の違いが分かっていただくよう、苦労しながら撮っています。

そんな中の一つに、手痛いレフ板作成事故というのもありました。

レフ板とは、ご存じのとおり逆光や光量不足の被写体にやわらかい光を投げかけるための銀色をした大きな板状のものです。

とりわけ、お堂の中は暗いのが普通ですので、私もレフ板を使いながら仏像の特徴を

分かりやすく、また仏様のお姿が一番輝いて華やぐように心がけて撮っています。

ところで、このレフ板を持ち運びに便利な折りたたみ式になるようにと、自分で作っていた時のことです。

材料には、こたつや布団の下の断熱材として利用されるちよっと厚めでアルミ箔の色をしたしかも折り目が

入ったシートを用い、これに端の方だけ2枚の細長い板を挟み合わせるように取り付け、丈夫な枠を作ろうと思ったんです。

2枚の板を木ネジ5・6カ所で締め付けるのですが、木ネジが2枚の板を貫通しないようドリルを取り付けた電動ドライバーで2枚目の板の中心まで穴をあけていたところ、何を思ったか最後の穴に

来たとき、こともあろうにドリルを貫通させてしまったのです。

アグツツ。言葉にならない声と青天の霹靂とばかりに激痛が襲いました。

なんと貫通したドリルの先には、板を押さえる私の左手

中指の先端があったのです。自分のオッチョコチョイな

性格を何度悔やんでも悔やみきれません。

直径2・5ミリのドリルの歯は、一瞬にして指紋さえもぎ取ってしまいました。ドリルが収まっていたパッケ

物が局部に当たれば鈍痛が走る。ことあり、まさにその名の通り手痛い失敗でした。

さて、秋の気配が色濃くなってきたある日、中松の光照寺跡地内にある観音堂を訪ねてみました。

近くにある大きなイチヨウの木には実が鈴なりになっており、早くも熟した実の落下が始まっていました。

観音堂に目を移したところ、以前の形と違っていたため足が瞬間的に止まったものの気を取り直し、いざお堂の中へ。

ドアを開けたそこは流しを備えた部屋で、その奥の部屋が広い拝殿になっていました。

きれいに掃除されたその拝殿に上がってみると、拝殿より一段高い祭壇に大きな十一

面観音坐像がハスの葉を台座に鎮座されていました。

ただ、その大きさに圧倒されながら拝顔したところ、なんと光背の上部と十一面の顔

の部分は天井板より高い位置にあり、その部分の天井板は外されてさらに高い位置に設置されている状態になってい

ます。観音様からしてみれば、よ

り高いところから見渡すことができ、より多くの人々を見守っていらっしやることでしょうか。

私もこれまでたくさんのお堂と仏像を見ましたが、ここまで大きな仏像に対応したお堂は初めて見ましたね。

拝殿内には、地域のみさんの浄財をもとにして、数年前に改築されたことが記されていました。南阿蘇っていいな。みんなで地域の宝物として、こうしたかけがえのない文化財を守り続けてくれますからね。

近くの民家には柿がたわわに実り、田んぼにはコンバインがうなりをあげ、まさに秋本番を迎えたことと、素晴らしい仏像に会えたうれしさに思わずスキップしたくなりましたが、近くには幹線道路も走っていることから思いとどまり、下を向いてニヤリとしたあとガッツポーズ。次回もお楽しみに。

〔記事と写真〕

県文化財保護指導委員

笠野 次雄